

歌誌 黄雞「冬号」投稿歌

山形 黒沼 貞志

歌題 アンソロジー 2016〜2020 I

山里の早苗に水と光満ち春色の濃き山映りけり

水仙と共に仲良く廃バスは新たな役目で旅人癒せ

春蘭と狸々袴と野薑が咲き零れける卯月の山路

「雨音はシヨパンの調べ」口遊み雨垂れの写真飾る走り梅雨

草花が初夏を迎えて人を待つ英国風のガーデン爽やか

花満ちる薔薇園分け入るカメラ女子マナーを忘れ擦り傷忘れ

初秋の休日楽しむ家族連れ薔薇の見守るしあわせの構図

仮装する慣わし今はコスプレにDJポリスと渋谷のハロウィーン

秋の山期待のお釜晴れぬガス願ひ通じて拳がる歓声

遠ざかるちり紙交換耳にしてエコ喧伝の功罪想う

テレビには矜持なき言葉流れ出づ嫌悪先立ちチャンネル変えたり

投稿歌の掲載の日の新聞は読みたくもあり捲りたくもなし

かの国の国民投票魔物おり想い及びぬこの国の先行き

眼閉じ採血に臨むわれのそば看護師患者の会話飛び交ふ

脳ドックのMRIの二十分寄る辺なき闇に響く検査音